

も、やはり財源確保というものは先決ではないかなというふうに思っておりますし、人口減のスパイラルと言いますけども、考え方では人口減の展開というものもあるのではないかなと。やはり住んでる市民が満足度を高めていくというのが、まさにそれじゃないかなというふうに私は思います。

やはり今回のこの事業は、市長が言うとおりの、金額的にはいろいろなこれまでの事業を例に出されておりましたけども、社会情勢や、そのときの景気というようなものもあるとは思いますが、今回の同時進行は、なかなか私なりには無理がたたってくるのではないかなというふうに心配するところであります。ぜひやはり私が申し上げました慎重に展開というものも今後考えてみていただければ、この辺の事業についても必要なものは整備していくと言いますが、あと第4次の実施計画が私らに配られました。言っても第4次は25年度で終わりですけども、その後、第5次総合計画、そして整備事業というのがありますので、その辺のときにも何ら市民へのサービス提供というものは遅くはないというふうに私は思いますけども、その辺はどうでしょうか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 一般質問でも何度かお答えしましたので、ちょっと繰り返しになって恐縮ですけども、まず今回の都市再生整備計画については、例えば本町の街路事業にあわせた本町広場、これは本町の街路事業が円滑に進むように、この事業にあわせて本町広場をしないと実は進まないような状況になっております。これが一つ。

それから、中心市街地のいろんなところからたくさんの生活環境関連の要望が出ております。これ一つ一つの事業は5,000万円、6,000万円ぐらいなんですけども、そういったものが10数本実はあるわけなんです。しかし、これはそれだけというのはできないんですよ、セット事業です

ので。

例えば今、米沢市で同じように都市再生整備計画を22年度に認定を受けて、ご承知だと思いますが、50億円弱でサッカー場ですね、それから市民ギャラリーとか、さまざまなものやっております。あれをちょっと見せていただきますと、余り生活環境はないんですよ。どちらかというとまちなかの都市機能を充実させるというような事業内容かなというふうに思っておりますが、米沢市もやはり議会でもいろいろ議論があったと思うんですが、まず都市再生整備計画を立てた後に中心市街地の活性化基本計画を立ててるんですね。

これは私は、実は長井市の場合はそうじゃなくて、先にそういったものをやらなきゃいけないかなと、議会の皆様のご質問をいただいて反省しておりますけども。そういった意味では、総合的にやっていかないと私はいけない時期に来てるんじゃないかと。単発ですと効果が出ませんし、そんなことから、ぜひ安部委員のほうからも、今後むしろあり方について、これから計画の内容はどんどん変えることができるわけですから、ご指導いただければありがたいというふうに思っています。

○佐々木謙二委員長 11番 安部 隆委員。

○11番 安部 隆委員 時間もございませんので、今、答弁いただきましたことに対しましては大変ありがとうございます。今後、このまちづくりについても、また機会あるごとに質問を申し上げたいというふうに思います。

以上で質問を終わります。

町田義昭委員の総括質疑

○佐々木謙二委員長 次に、順位2番、議席番号9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 私は、長井市の後世、そして次世代の皆さんに負担の少ない、またツケを残さないようなまちづくりを願いながら予算総括質疑をさせていただきたいと思います。

1番目のマラソン関係についてでございますけれども、私はマラソンは苦手でございます。市長は体型的にはどうかと思いますけれども、恐らく得意なほうではないのかなとは思いますが、給水をしながら質問をさせていただきますので、市長も給水をぜひとっていただいて答弁をいただきたいと。また、市長にのみ答弁を求めていますけれども、場合によっては関係課長に振っていただきたいと、そんなふうに思います。

ちょっと本題に入ります前に、24年が始まりまして、大雪で明けましたけれども、ちょっとうれしいことがあったなというようなことがございましたので、この場をおかりして報告をしたい、そして喜びたいと思ったんですけども。実はことし、道照寺平スキー場が久しぶりにというか、2シーズンぶりというか、開場したわけで、オープンしたわけでありまして、いいスキー場になったなというように声をかけていただいた方がたくさんおりました。特に私も近いものですから、数回行ってみましたし、またスキー大会のとき、右手の急なところのコースに非常に上手な人がおいてくるなと思ったものですから、たまたまそちらのほうに行って声をかけさせていただきました。市民の方かなと思ったんですけども、そうではなくて、地区外の方がいらして、いろいろお話をさせていただきました。ほとんどのスキー場、山形県内を歩いているんですけども、去年までの白山森スキー場もよかったよと。しかしながら、「このスキー場は本当によくなったね」という声をかけていただいたのが本当にうれしかったなと。もう少々の競技もできるよというところまで褒めていただきました。

それが一つと、あともう一つは、インターハ

イに出しておられる親御さんと私はおつき合いがあるものですから、ぜひ道照寺平スキー場へ行って感想を聞かせてくれませんかというようなことを申し上げておったわけで、その方に行っていただきました。あれぐらいのスキー場ができるとは思っていなかったと、もう十分競技できるスキー場になったなというようなことで、本当にこの冬は大雪であったんですけども、うれしいこともあったなというようなことで、今ちょっと述べさせていただいたところでございます。ただ、1点、その人の言葉にひっかかるものがありました。「明かりがついているとなおよろしいんですけどね」ということでございました。

本題に入りますけれども、長井マラソンをシティーマラソンに格上げができないかというようなことを申し上げたいというのが私の願いでございます。ことしの長井マラソン並びに白つつじマラソン、もう本当に私もびっくりしておるんですけども、歴史があるなど。長井マラソンは、ことしで26回目、白つつじマラソンは34回目ですか。本当に継続は力なりというんでしょうけれども、このすばらしい長井市の財産をこれからも継承しながら、そしてよりよいものにつくり上げていくということも長井市民の役割ではないのかなと、そんなふうに感じているところでございます。

特に長井マラソンにつきましては、私も年1回、近くでございますので、マラソン大会が始まりますと、ことしも長井マラソンが始まったなということで、たくさんの方が走っていただいている姿を見たときに感動を覚えるんでありますけれども、それと同時に、このマラソンを形づくっていただいている皆さんがたくさんいるんだなということも常に考えて、見させていただいております。特に安全協会の皆さんなどは毎年出ていただいて、そして携わっていただいていると。感謝と敬意を申し上げたいと、そ

+

んなふうになっておりますけれども。

そういう状況の中で今、ラン文化ということが言われているようでございます。ランニング文化という言葉なのかなと思ってのんですけども、マラソンの文化に火をつけたのが何といても東京マラソンの実施ではないのかなと、そういうふうに思います。東京マラソンは、もはやビジネスマラソンと、そんなふうに使われておりますけれども、このラン文化に対して、余りいい言葉ではないような気がするんですね、ラン文化というのは、やっぱりマラソン文化と言ったほうが聞こえがいいのかなと、そう思いましたので、このマラソン文化というものに対して私は、やはり長井市もせっかくフルマラソンがあるわけでございますので、山形県で行われているただ一つのフルマラソンを生かそうじゃないかというような気持ちでおりますけれども、この点について市長はどのように考えておられるのか、お聞きをいたします。

+ ○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

ちょっとまず最初に、スキー場のほうを少しお礼を申し上げたいというふうに思います。スキー場につきましては、これは地元、何と申しても平野地区の皆様、地権者の皆様からご協力をいただいて、ああいうふうな整備を若干できたわけでございますが、まだまだ途中経過だというふうになっておりますが、残念なのは、ああいったスキー場を進める際に補助事業がないと。全く単独でありますので、ナイター設備なども、時間をある程度いただきながら、きちんとやっていきたいと思いますが、大変お褒めをいただいてうれしく思います。いつもおしかりばかり受けておりますので、大変ありがたいと思いますし、今後、ぜひ関係の皆様のご協力をいただいて、さらに充実をさせていかなきゃいけないと思っております。

ご質問のラン文化、マラソン文化ということ

でございますが、委員おっしゃいますように、東京シティーマラソンをはじめ、その前に日本では青梅マラソンが大きかったわけですけども、それから外国でもさまざまなシティーマラソンがあるわけですけども、山形県内でも、聞くとところによりますと酒田市のシティーハーフマラソンの開催準備がことし進められていると。また、山形市でも山形シティーマラソンを来年の秋に開催するように準備されているということで、どちらも目標が2,000名から3,000名ぐらいであります。長井市の長井マラソンは一番歴史あるわけで、唯一のフルマラソン、あるいは白つつじマラソンも非常に回数を重ねているわけなんですけども、それぞれ例えば長井マラソンは鉄人会の皆さんが中心となって、現蒲生議長が一生懸命手づくりでされたものに対して、市で少しお手伝いをさせていただいていると。あるいは白つつじマラソンは、市内の走ろう会という団体が市のほうに依頼がありまして、教育委員会が中心となってやっていると。それぞれ距離とか内容が違うんですけども、そういう状況でございますし、おっしゃいますように、これから駅伝のまちとかマラソンのまちとしてやるには、もう少し工夫が必要なのかなと考えてるところでございます。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 担当課のほうからちょっと資料をいただいたんでございますけれども、白つつじマラソン、5年間のデータなんですけども、やはり毎年参加者がふえてるんですよ。そして、800名から900名ほどになっておる。その6割が市民の方々が主でございます。一方の長井マラソンのほうは、これはやはり微増ですけども、着実にふえておりまして、こちらも昨年度は900人までいっておるようでございます。しかしながら、大きく違うところは、8割が地区外もしくは県外の方が参加されておられると。ということは、差別化されているわけですね。

やはりフルマラソンであるというふうなことで、本当にマラソン好きというか、42.195キロを走らないとマラソンをした気がしないよという人たちが全国から集まってきていただいているという状況であるなど、そんなように思っております。

この地域外から来ていただいている方々というのは、私はほとんどがリピーターでないのかなと、そういうふうに思っています。新しい人もいますけれども、2回、3回あるいは10回と、そういうふうに重ねて来ていただいておりますというふうなことで、非常に長井市にとって大切な存在でないのかなと。よく解釈すれば歩く広告塔だと、口コミをしていただいているというふうなことで、これを大事にしたいなど、そんなふうに思っておりますけれども、この点について市長はどんな考えをお持ちでしょうか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員がおっしゃいますように、特に長井マラソンについては市外のお客さんが大部分でありまして、よく聞くのは、長井マラソンに出たことがあるぞという周りの人、あるいは国交省の皆さんとか県職員の皆さんとかからも、そういう話をお伺いして、非常にこういうものというのは、委員おっしゃるようにPRになるんだなということは身をもって感じているところです。聞くところによりますと、先ほど安部委員の質問の中で米沢市の人工芝のサッカー場の話を少ししましたけれども、あれは2面つくるんだそうです。そうしますと、東北では2カ所しかないんです、2面人工芝のやつが。そうすると、相当大きい大会も呼ぶんだと。その経済波及効果などもねらっていらっしゃるようなんですが、マラソンも相当、大抵お泊まりになるわけですから、地域経済にとってはいい影響があるというふうに思っております。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 私も全くそのとおりでな

いかなと思っております、やはり特に市長は観光というものの産業化を考えていると思いますので、観光については私は別に素材は何でもよいと思うんですね。やはりスポーツ観光というものもあるはずでございますので、山形県にとっては、その一番いい例が天童ではないかなと、モンテディオとパイオニアレッドウィングスがあるわけございまして、その経済効果というのは物すごく大なのかなと。あるいは上山の蔵王のアスリートたちが来ていただいているトレーニングセンターですか、本当にちょっと見えないんですけども、相当経済効果が出ているんじゃないかなと、そういうふうに思います。

ぜひ私はこのフルマラソンを長井市を挙げてして行ってほしいし、いくべきじゃないのかなと、そういうふうに思っております。特に5年間のデータなんかも見させていただいて、ほとんどが関係者によって資金をお集めになっていると。長井市は確かに負担金ということでお手伝いはしているわけでありまして、そんなに多い額ではないなど、そういうふうに思います。やはり気持ちと財政負担というのは一緒になっていかないと、なかなか一つのものが形づくられないのかなと、私はそんなふうに思っております、この長井マラソンを長井市挙げてのマラソン大会にしていく方向づけをぜひ市長にご理解をいただきたいなど、そういうふうに思ったところで、この点について、いかがでしょうか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 委員おっしゃいますように、長井市のほうでは、白つつじマラソンで全体事業費が百五、六十万円ぐらいの中で、市の負担が40万円ぐらい、一方で長井マラソンについては350万円から400万円ぐらいの予算の中で、市からはシーリングなんかをかけまして10数万のときもありましたし、若干少し戻そうということなんですが、あと実行委員の皆さんが寄附を募

+

っていただいたり、あと参加者の会費で賄って
るという状況でございます。

これはどういうふうに今後変えていかなきゃ
いけないということは、それぞれ市民の皆様、
主催の実行委員会の皆様と検討しなきゃいけな
いというふうに思ってますが、一つの考え方と
して、長井マラソンは昨年25周年でありました
けれども、今、工事しております学習プラザの
運動公園が26年度に完成の予定でございますの
で、それにあわせて例えば長井マラソンあるい
は白つつじマラソンを一緒に行くような形で長
井シティーマラソンみたいな格好でやることも
可能ではないかと。ただし、これは実行委員の
皆様、市民の皆さんはもちろんですけれども、長
井市の西置賜の陸協とか体育協会、また警察の
ほうも大変なんだそうです。そんなこともあつ
て、いろんな関係する団体あるいは妥協もそう
ですけれども、打ち合わせをしながら、できれば、
すぐにはできませんが、2年後、3年後あたり
に、委員おっしゃるようなシティーマラソンみ
たいな形にできればありがたいですし、そうい
った必要な予算については、ぜひ議会のほうか
らもご理解いただいて、考えなければならぬ
んじゃないかなと思ってるところです。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 私も、今3年後に向けた
白つつじマラソンのありようという、この3年
後というのは、陸上競技場が完成したときのこ
とを想定して。でも、白つつじマラソンは白つ
つじマラソンのやっぱり目的があって今行われ
てるわけで、長井マラソンは長井マラソンの趣
旨に沿ってやっておられるということで、どう
いう形になるのかわかりませんが、今から下準備
をしていって、陸上競技場が完成した
ときに一斉にスタートが切れると、そういう状
況を今からつくっておく必要があるのではないか
なと、そう思ったものですから、こんな話をし
たわけでございます。この白つつじマラソンは、

やはり道路を周回するとか、本当は黒獅子マラ
ソンコースを走れば一番よろしいんだと思いま
すけれども、交通規制とか、さまざまなもので制
限があるんじゃないのかなと私も思いますし、
それはいろんな方法を模索できると思います。

しかしながら、何といっても財政的な裏づけ
がないと盛り上がらないということも私は事実
だと思います。特に長井マラソンの場合は、外
からもお客様を呼ぶことができますし、またマ
ラソンを観戦する人の立場に立った施策という
ものも大事なのではないかなと、そういうふう
に思います。すべてシティーマラソンのような
大きなマラソンをやって動員数をふやしておら
れるところは、簡単に言うと金をかけてると。
というのは、ゲストランナーなんか有名な人を
呼んで。簡単なんですよね、考えようによつて
は。金さえかければ人は集まってくると。しか
しながら、長井市のやっぱりやり方、良さがあ
ろうと思いますので、私は、少なくともゲスト
ランナーを毎年確保できるような姿に持ってい
けないもんだらうかと、そんなように今考えて
おるわけで、今までさまざまな、白つつじマラ
ソンのほうは、私の記憶だと、高石ともやさん
などが中心になって何年も来られたような記憶
がありますし、長井マラソンは昨年度は松野明
美選手が来られたようでありますけれども、そう
いうものを毎年継続的にゲストランナーを呼ん
でいけるというような体制づくりをしていただ
けないものかなと、そんなように考えておるわ
けでございますけれども、この点について市長の
考えをお聞きします。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 予算の件でございますけれども、
例えばどのぐらいの規模の大会にするかという
ことはあるわけなんですけど、大体白つつじも、
あるいは長井マラソンについても1,000人弱な
わけですね。それを仮に例えば長井マラソンは
学習プラザをスタートします。ここを鶴岡とか

山形市並みの3,000人にするということになりますと、問題として出てくるのは、駐車場がまず大変だということと、人数が多くなりますと、相当沿線での整備に手間がかかる。あと、いろいろエントリーしたり何とかかんとかですね。今、生涯スポーツ課の体制ではなかなか厳しいのかなど。かといって体協、陸協あるいは実行委員会の皆様からもいろいろいただいても、ちょっと混乱はするだろうなど。しかし、それを乗り越えなきゃいけないだろうと。ですから、学習プラザの運動公園を整備しても、残念ながら3,000人呼ぶぐらいの駐車場って足りないのかなど。それが一つ大きな課題です。

あと、例えばこの辺で、東北でも一番大きいぐらいの東根のさくらんぼマラソンですね。これ1万人を超えてるわけですけども、会場が陸上自衛隊の第6師団のところを大体借りてるといふふうに聞いてます。まちなかというところと相当危険なもんですから、長井警察署さんなんか、県の高校駅伝、東北高校駅伝なんか、もちろん高体連、地元の陸協はもちろんですけども、警察なんかも総動員して出す、非番招集をかけてやってるといふことですので、やっぱりちょっと一概には言えないんですが、そういう体制をもう少し構築しないと行かない部分もあるのかなど。ただし、やはり有名選手を呼びますと参加する人も励みになりますし、それが例えば高橋尚子みたいに、去年、おとしあたりを呼びましたですね。そうすると、それだけで300万円とか400万円とかというのはちょっと難しいかもしれませんが、やっぱり長井市でも話題づくりのために毎年そういったこともできるように、充実させるように検討したいなというふうに思います。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 やはりマラソンというのは、走って参加する人たちが楽しいということではないと思うんですよね。それを見学する。

そして、見学をしながら、そこに参加すると。そして、喜びを感じると。そうした人たちのほうがもしかすると重要なかもしれないというように私を感じているわけで、別に東根のマラソンとか、そんなことはさらさらないので、私は1,000人なら1,000人の規模でいいと思います。しかしながら、今の状態ですと「参加する人のためのマラソン大会」だという色合いというんですか、これが極めて強いわけで、やはり「見たいなというマラソン大会」にぜひしていただきたいというようなことで、私はゲストランナーというのは極めて重要だと。そして、そのゲストランナーも大概マラソンに携わった人とか、そういう人だけではないのではないかなど私は思っているんで、やはり人を呼ぶということについては、特に芸能人の方々、歌手の方々とか、マラソン大好きな人がおられるということも気づいてほしいなど、そんなように感じてます。

特にマラソンに関しては、長谷川京子さんとか、ちょっと古いんですけども、丘みつ子さんとか、たくさんおられるわけですね。男性では、猫ひろしさんとか、東国原元宮崎県知事。ここはちょっと高いのかもしれませんが、あと間寛平さんとか、さまざまな人がおられるわけで、そんなアイデアも、実現するかしないかは別にしても、そんなアイデアが出せるシティーマラソンというものを形として議論していただいたらいいのではないかなど私は思っているんで、ただ、その点については、やはり少なくとも長井市で全体の予算規模の1割ぐらい、10%ぐらいは手助けしてやらないとできないのではないかなど。今の20万円ではこれはどうにもならないわけで、また協賛金なども皆さんが募って求められておるようでありまして、この協賛金のほうも、いつまで続くのかというようなことで、かなり心配なされておるというような話もお聞きしますので、ぜひ行政としてもこれを

+

継続して、さらにシティーマラソンに位置づけをしていくという考えであるならば、財政的な裏づけもきちっとしていただきたいなど。そして、まだまだ楽しいゲストランナーを呼ぼうじゃないかというような考えを私は持っているんですけども、その点について市長はいかがでしょうか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 せっかくやる場合は楽しく、注目を浴びるようにしたいものだというふうに思いますが、やっぱり今までの状況では、財政が厳しいと。そういったところは少しでも支援しようということ、本当に少ない金額の中で実行委員会の皆さん中心に市民の皆様が頑張っていたということには改めて敬意を表したいと思いますし、これからは基本的には何か記念大会のときに、そういったことを考えようと思っておりましたけれども、なおその実行委員会とか、さまざまな関係者の皆様と協議をしながら、どういうあり方がいいのか、やはり意見をいただいて考えていかなきゃいけないと。しかし、やっぱりどうせやるんだったら楽しく、注目を浴びるようにしたいものだなというふうに思っておるところでございます。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 ぜひそうした環境づくりをしていただきたいと思います。

蛇足になるんですけども、私は、毎年100万円ずつ市の方からこれにかけたって、1億円になるには100年かかるわけですね。そういうやはり1年にしてみると、例えば100万というのは、もしかすると高いなという感じがするかもしれませんが、100年たっても1億円しかかからないというような考え方もあるなど、そんなふうに、さまざま考えております。今、億単位の仕事がどんどん、さまざま考えられておるわけで、ぜひこのマラソンも100年で1億円をかけるような考え方で臨んでいただきたい

など、そんなふうに思います。この点についてちょっと市長、いかがですか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おっしゃるとおり、たった100万円かもしれませんが、やはり経済効果もいろいろあります。ただ、公共事業というのは1日、2日でしか使わないわけじゃないです、何十年と使う。なおかつ、それを一つのやはり長井市として必要なものということでやるわけでありまして、そっちも大切だと、こっちも大切だということだと思えますし、あと100万円では、例えば白つつじで40万円しか支援しておりませんが、60万ふえただけではだめですよ。ですから、やっぱり200万円、300万円、それを一緒にすれば、長井マラソンは、去年は別として170万円ぐらい、これは補助事業を絡ませたわけですね。これ市単独の事業でありますので、何か効果を考えてやはりやっぴいかなきゃいけないんじゃないかなと。今まで15万円とか20万円だったのが、いきなり300万円とか、ここはなかなか難しいので、その辺も踏まえて。ただし、町田委員おっしゃることもよくわかりますので、こういったソフト事業にも十分にお金をかけていかなきゃいけないというふうに思ってます。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 先日の山新の「談話室」の中で、先ほど市長も言われたとおり、酒田市も山形市もシティーマラソンをします。そして、酒田市は2つのマラソンを一緒にしてやるんですよというようなことで、ここでちょっと気になる言葉があったんですね。酒田市や山形市がシティーマラソンをして、ハーフマラソンをします。どうせやるなら42.195キロのフルマラソンがぜひ欲しいと言ってるんですね。長井市がやっぴいじゃないですかと、私はそういうふうに言いたかったんですね。全く認知度が、本当に残念ながら知りませんでしたということだと

私は思うんです。長井市がやってるんですから、私はこれは絶対に盛り上げなくちゃならないと、そんなふうに思いました。このフルマラソン、42.195キロをぜひ盛り上げていただきたいなど、そんなふうに思います。1番については、この辺で終わりたいと思います。

続いて、本年度、24年度の施政方針についてというようなことで、総論的なことをお聞きをしたいなど、そんなように思っておるんですけども、22年度の施政方針のスローガンが「幸せの実感できるまちづくり」というようなことで、そして23年、24年は、「幸せに暮らせるまちづくり」というようなことで、この「幸せ」というものを前面に出された施政方針、そして方向づけをされているわけで、私も、総括質疑あるいは一般質問の中でちょっと言葉を挟んだような気もしますが、この幸せというものについての物差し、あるいはレシピというものは、本当に長井市民2万9,500人おるならば、同等の幸せ感がありますし、みんな違いますよというふうなことだと認識をしております。この「幸せ」というものについて、今さらなんですか、市長はどのような言葉で、長井市民がこうなったら幸せに暮らせるんですよとか、こうなったら幸せの実感を感じることができるといふものを言葉で表現するとしたら、どのように申されるのか、その点についてお聞きをしたいなどと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員おっしゃいますように、幸せの価値観というのは、2万9,500人いれば2万9,500人それぞれなんだというふうに思っていますが、平成22年度の施政方針の中でも詳しく述べさせていただきましたけれども、関西大学の草郷先生の書籍もそうですし、講演も私、聞いたことがあるんですが、その中でやっぱり一つ、これが原則だろうと思うのは、働きたいと思う人が働く場があること。少なくとも失業

者が幸せ感を持つということはないのだと。しかし、物だけではないですよということなんです。ですから、原則はやはり衣食住が満たされて、そしてあとは健康ですよ。心身の健康が保たれて、安心・安全に暮らせるというのがまず大原則なのではないのかなというふうに思っています。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 去年の3・11の大震災を受けて丸1年になるわけでありまして、365日、毎日あの映像が目に入ったと。私も生かさせていただいて60数年になりますけれども、こんな1年はなかったなと。これからはずっとあの映像は毎日のように、まだまだ見させていただくことになるんだなというふうなことで、私も大分人生観、そして幸せの価値観というんですか、そういうものも変わってきたと。それは事実だと自分では思っておりますし、長井市民の方々も果たして今までの、1年前の幸せというものと1年後の幸せ感というものに差が生じてきてるんじゃないかなと。それはどういう形だかわかりませんが、今まで求めておった幸せが1年後、それは必ずしもその部分ではないよというふうに変ってきてる部分があるのではないかなというふうに考えておりますけれども、市長はそういう実感はありますか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員おっしゃいますように、大分日本人の価値観が大震災を契機として変わったということは、いろんな方がおっしゃってるわけですが、私も、どちらかというと、戦後の日本人は自由主義というよりも個人主義ですよ、自分がよければいいやというところの部分が強かったと。しかし、それが今回の震災で改めて自分で自分のことはやらなきゃいけないんだけど、自分1人でできないこともたくさんあるんだなと。やっぱりお互い助け合うとか、思いやり、そして何といても家族の愛、

+

きずなといいますか、そういったことに改めて人生の中で重要なことなんだなということを感じかされたのではないかなと、未熟ながらも思っているところです。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 確かに私も市民の皆さんと話をする機会があるんですけども、何か1年前と変わったな、違うなと、そんなように今感じているところでございます。そういう幸せ感の変化を的確に市長はとらえていただいて行政運営をしていただければ幸いなのかなと、そんなように思います。

24年度の施政方針で非常に特徴あるものについては、億単位の大型事業の展開が非常に多くなったなということは実感として感じております。別に24年度に急に始まったわけではございませんけれども、ここ2年ぐらいの間から、ちょうど駅周辺の公園づくりのあたりから、そうした事業がふえてきたし、また28年度までずっと私的には矢継ぎ早に計画が出されておると。市民にとっては非常にうれしいことだと思います。というのは、今まで市長も申されたように、行財政改革で非常に制約をされてきたという中で、ようやく事業が展開され、それが市民にも見えてきているということで、ようやく私たちの市民サービスもしていただけるようになったんだなということを実感として感じておられるのではないかなと、そういうふうに思っております。

ただ、どんどん大型事業の展開が計画されてきますと、一つ一つの事業を、1年に1回の事業ならば、きちっとした隅から隅までの事業内容を詰めて行動するということができるはずでございまして、矢継ぎ早だという場合は、ややもするとおろそかになる部分が出てくる危険性はないのかなと。してもらっては困るんですけども、ないのかなというふうなところを私としては感じておりますので、その点について市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 確かに委員おっしゃるように、今回の事業は総合事業でして、何度も繰り返しのようになりますが、人が交流することによって経済効果をもたらそうというのが2点。それから街路事業を円滑に進めるために、この事業をしないと実は街路事業でネックになっているところが解決しないということが1点。それから生活環境整備、冬期間であったり、あるいは豪雨時に河川のいろんなことがあると。そういった部分がやっぱり7点から8点ぐらいございます。そういった総合事業でして、一つ一つというのはおっしゃるのはよくわかるんですが、これは生活環境だけではだめなわけですね、この事業そのものは。別の事業でできないわけでもないんですが、それは一般質問でもお答えさせていただいたように、都市計画区域内と、あとそれ以外の場所では、事業をうまく使い分けしながら、この10数年できなかった特に生活環境だと思えます。

やっぱり安心・安全に暮らしていく上で欠かせない公共事業ができなかったわけですから、そういったことを計画的にやっていこうと。今回は中心市街地のところを街路事業も成功するようにということで考えておまして、そういった意味では、委員おっしゃることもよくわかりますし、それが原則だと思いますが、なお、一番の私の思いというのは、やっぱり幸せにはまず雇用が一番だろうと。あるいは自分で自分たちの子供が戻ってきたいんだけど、戻ってくる状況じゃない。例えば事業をやってもいいと、そういうようなまちにもう一回チャレンジすべきじゃないかということでありまして、ほかに何かいい案があれば、それはそれで、そっこのほうでも別に私は構わないわけでした。ただ、総合的に考えて、今、じゃあそれにかわるものがあるだろうかと考えたときに、こういった総合事業に取り組みざるを得ないのかなと

思っているところでございます。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 確かに市長の言う人々が求めている総合事業というものは、一つの物語なわけですね。だから、その物語の中の例えば10個の小さなものが一つになって、初めて目的が達成できるということだと思います。そういうことで、一つでも達成できないと全体が達成できないんですよということになるのではないかなと。そういうふうにならぬ一般質問あたりの答弁を聞いて感じているんですけども、やっぱり市民の皆さんに私は理解をしていただかなければならないという、リーダーとしての使命があるわけだと認識しております。一つ一つやっぱり説明をしてもらわないと、わからないのが市民の皆さんなのではないかなと。幾ら市長がわかっておっても、やっぱり伝わらない部分があると、せつかくの事業が新しい評価をいただけないとか、そういうふうになってくれば寂しいのかなと私は思っておるものですから、事業があればあるほど市民に対するご理解をしていただく努力をしていただかなければならないのかなと、そんなふう思っておるわけで、この点について市長、いかがですか。

○佐々木謙二委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 町田委員おっしゃるとおりだと思います。やはり市民の皆様、今よく内容がわかりませんし、事業そのものの部分も、正直なところ一般質問でおわびいたしました。ほかの市町村がやってるやり方で、じゃあ、長井もいかという、そうじゃなかったと。改めて自分としては23年度中に少なくとも中心市街地をどうするかという協議会的なものを立ち上げて、その中で都市再生整備計画とか観光振興計画とか、あるいは生活環境の整備とか、そういったところなど、宅地の分譲もそうですけども、そういったことを意見をいただかなければいけなかったんですが、その部分が遅れてしまっ

たと、普通の事業のあり方になってしまったということについては非常に反省してます。

今後でございますけれども、しっかりと24年度に入りましてから、幸いにも総合計画を策定するというので、各地区の座談会にも入らせていただきますし、いろんな機会をとらえてやっぱり説明をしなきゃいけないし、いろいろご指導いただかなきゃいけないと、議会からも、あと市民からも意見をいただきたいと思います。

なお、事業そのものは内容は一応上げておりますが、セットとしては大体、例えば総合事業ですから、都市を再生させるための経済の活性化とか、にぎわいづくりとか、そういう機能をどういうふうにしたるか、あと生活環境があるわけですね。今回上げて中身がすべてないだめだというふうにも私も考えておりません。違うやり方でもいいんですね。ですから、あくまでも総合的なメニューであれば、国のほうではよしとするわけで、その内容の詳細については事業の性格上、これから詰める。当然米沢市さんのように議会からいろいろな提言があつて、あるいはご指導があつて変わるということがあり得るわけでありまして、そこは臨機応変に考えておりますので、ご指導いただきたいと思います。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 市長から非常に弾力性のある答えをいただきまして、うれしく思っているんですけども、やはり一般質問の中でずっと答弁を聞かせていただいております中で、一つのストーリーを完成しないと最終的な目標は達成できないよ。目的を達成できないということは、結果が出せないというような意味合いの言葉が強く伝わってきていましたものですから、あえて今、質問させていただいたわけでありまして、やはり同じ市民の方々であっても、この一部のことについては別な民意があるのではな

+

いかとか、あるいはこの部分についてはなくてもいいんじゃないとか、いろんな考えを持っておられる市民の方というのはもちろんいらっしゃると思いますので、それこそそういう考え方を総合的に判断して、ぜひセットしていただきたいなど、そのように思っております。

それと、これからの計画を聞かせていただいたり、見させていただいたりする中で、少し私としては気になってるところがありますけども、これから事業の展開の中で、大きな事業に必ずついてくるものがあるんですね。それは一つの公共事業ができることによって、その周りが必ず公園になるわけですね。私は、公園というのはずっと数えてみますと、28年までに、ざっと10個ぐらいできるんじゃないかなと、そのように今思っております。公園というのは、市民にとって本当にいやしの場にもなるんでしょうし、ぜいたくなものなんですね、考えてみれば。必要なものでありながら、ぜいたくな部分であるわけですね。公園に行く暇がある人がたくさんいるということになるわけで、ただ、公園そのものを新しい公園をつくった場合に、今までの公園まで手が回らないような状況づくりだけはしてほしくないなど、そういうふうにも思っております。それは、それぞれの公園が目的があるわけですので、そんなことはないはずですけども、しかし、常に財政的なこともあると思いますし、どうしても公園の管理というのは市民のボランティアに頼らざるを得ないとか、そういう方向とか、どうしても経費というものについては抑えられる形で今までも来ましたし、その点について、公園づくりに関して市長のお考えを持っておられると思いますので、今までの公園をベースにして新しい公園ができた場合に、どんな形になっていくのかと、その点についてお聞かせください。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員がおっしゃるように、

長井市内で公園と名のつくものがたくさんあるわけです。これから、あるいは今、工事中のものもたくさんあります。例えば学習プラザの運動公園と言ってますが、あれはスポーツ施設だと思ってます。公園ではないと。これは国交省の防災機能付きの都市公園という整備事業の名目でスポーツ施設を整備してるものでありまして、確かにオープンエリアがありまして、多目的の広場については、さまざまなスポーツができるスペースがあります。あと多目的スポーツ広場というのは、サッカーもできますし、ソフトボールとか、いろいろできます。ただし、陸上競技場については、全天候型の3種の陸上競技場ですし、備蓄のできる倉庫ということで、そこをスタジアムにしてるわけですね。ですから、そういったことをしておりますが、これは公園という補助事業のメニューでありまして、したがって、例えば今、伊佐沢のコミュニティセンターも、これは農林の補助事業でさせていただいたわけですね。しかし、農林施設ではないわけですよ。ですから、そのところはちょっと違うということをご理解いただきたいと思います。

それから、河川公園についても、もう既にこれ各地区でも例えば致芳地区あるいは清水町のところも県のパークゴルフ場にしたり、あと豊田地区も、いろんな地区の公園として使ってますけども、これはそれぞれの目的で地元の方々あるいは管理団体が運営してます。市でやっているのは、長井橋のところの世界の花園という事業でやったんですが、これについては全くの公園だと私は思います。一方で、今回つくろうとしてる都市再生整備計画の川と道の駅と、その公園というのは、ちょっと性格が違うもので、ただ、河川スペースの部分については市のほうでやはり管理運営しなきゃいけない部分もございますけれども、基本的には川の駅の部分については独立採算ですし、あと舟運の史跡も含め

て、さまざまなレジャー機能を有するものだと思います。

また、今の案でいいますと、花公園の駅前のところは、まずあそこの親水公園については親水公園としておりますが、これはこの間の質問でも申し上げましたように、豪雨対策、それと中道の皆さんの環境対策が半分以上、その目的があったと思っています。それにあわせて長井駅にいらした市民もそうですけど、外からいらした方がある程度、水と緑と花を感じられるようにということのスペースでございます。花公園については、これは収益を上げる、あるいは人を集める装置として考えていますので、市民にも使っていただきますが、またちょっと違う機能だと思っています。

なお、あやめ公園については、もともと市民公園だったものを観光公園化として一部その期間だけ使ってる、つつじ公園は満開のときは無料なわけですが、通常は市民の憩いの場という考え方でありますので、一つ一つ考えていきますとちょっと性格が違いますので、何も市が全部今回の事業もやることによって管理運営費が大幅にふえると、もちろんこれは市で持つものもありますけれども、ふえるものではないというふうに思ってますし、そうなるはならないだろうと考えてるところです。

○佐々木謙二委員長 9番、町田義昭委員。

○9番 町田義昭委員 これから多くの事業が展開されると思いますけども、やはり市長の強いリーダーシップがあればあるほど、事業量が多くなればなるほど市民の理解を得てほしいな、また市民の理解を得なければいけないということになると思いますので、やはり市民との乖離というものとは絶対避けていかなければいけないと、私はそのように感じているわけで、私も市民の皆さんからの一部代表させていただいている立場としましてさまざまな市民の声が聞こえ

るようになりましたので、やっぱりこれからもさらに市民の皆さんに耳を傾けていただいて、新幹線に乗った気分じゃなく、やはり各駅停車になっていただいてこれから歩いてほしいなど、そんなように思いますし、あといま一つ、やはり市長は常に壇上で市民の方々を見つめる立場にあるわけでございまして、壇上から見る目とやはり客席から見る目も当然違うなというふうに思いますので、時たま客席におりていただいて市民を見つめて、今もそうしておられるはずでございますけども、さらに心がけていただきたいなど、そんなように思います。

いろいろ申し上げましたけども、私は長井市が本当に市民の皆さんに理解をしていただけるまちになってほしいという願いの一点でございます。その意味を込めさせていただいて質問をさせていただきました。これで終わりたいと思います。

我妻 昇委員の総括質疑

○佐々木謙二委員長 次に、順位3番、議席番号7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 よろしくお願ひいたします。

私は、観客席の立場で考えながら質問をしてまいりたいというふうに思っております。まず、一般質問から、この予算総括から、さまざまな方が質問されていますので、何回も重複するような質問になるかもしれません。ご容赦いただきたいと思ひます。

まず、都市再生整備計画と観光振興についてということなんですけれども、総額19億1,000万円の事業、28年度まで、のうちの長井市が負担する額が不透明ではないかということで、この社会資本整備総合交付金事業を活用して都市

+